

養殖用アカモク種苗の沖出し

近年、全国的に需要の拡大している食用海藻の「アカモク」ですが、天然ものは資源の年変動が大きく、ほとんど収穫できない年もあります。そのため、京都府では生産の安定化を目指してアカモクの「養殖」を推進しており、海洋センターでは、独自に開発した技術を用いて漁業者に配布する養殖用種苗の生産と、養殖指導を行っています。今年度は、アカモクの種苗生産期に異常高水温に見舞われましたが、当センターで開発した海水の簡易冷却システムを用いて高水温期を乗り越え、無事に種苗配布要望数(約3万本)を確保することができました。

養殖アカモクの一大漁場である宮津市の養老地区では、10月中旬から11月初旬にかけて種苗の沖出し※作業が行われました。収穫期となる2～3月には、10～15トン程度の水揚げが見込まれます。

※ 沖出し:陸上の水槽で生産した種苗を大きく育てるため、ロープに取り付け(種付け)海の養殖施設に設置すること。



種苗設置(種付け)の様子



種苗沖出しの様子